

MAZDA



2026年6月30日

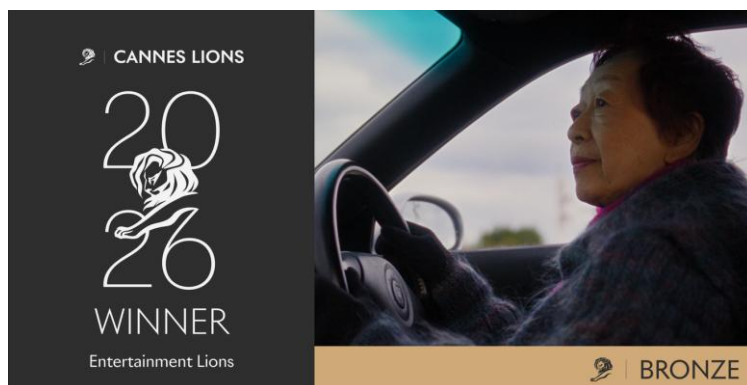
マツダのドキュメンタリー映像が 「カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル 2026」で ブロンズ賞を受賞

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、一人のマツダ車オーナーと愛車の絆を描いたドキュメンタリー映像「RX-7と過ごした25年間、最後の3日間 ～クルマが残してくれたもの～(英語名: Goodbye RX-7: Saying farewell to a dear friend)」が、「カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル 2026」(以下、カンヌライオンズ)において、エンターテインメント・ライオンズ部門でブロンズ賞を受賞したことを本日発表しました。カンヌライオンズの受賞は、マツダとして初めての受賞となります。

カンヌライオンズは、1954年に創設され、毎年6月にフランス・カンヌで開催される、世界最大規模の広告・コミュニケーションフェスティバルです。期間中にアワードが順次発表され、世界で最も権威あるクリエイティブ・アワードの一つとして広く知られています。

この受賞作品は、25年間乗り続けた愛車「RX-7」と一人の女性オーナーがともに過ごした時間に寄り添い、人とクルマの間に生まれるかけがえのない絆を描いたドキュメンタリーです。80歳を前に免許返納を決意したオーナーの深い愛情や感謝を通じて、クルマが単なる移動手段ではなく、人生をともしにする存在であることを表現しています。

マツダは、クルマは「走る喜び」を通じて人の人生を豊かにする存在であると考えています。本作品は、そうした想いを背景に、クルマとともに紡がれる時間や記憶がブランドを形づくることを表現したものであり、その点をご評価いただいたと受け止めています。また、マツダはオーナーの想いを受け継ぎ、当該車両の引取先として、広報車という新たな役割へとつなげました。こうした取り組みを通じて、本作品で描かれた物語の継続にも関わっています。



「RX-7と過ごした25年間、最後の3日間 ～クルマが残してくれたもの～」
(英語名: Goodbye RX-7: Saying farewell to a dear friend)

マツダは、今後も「ひと中心」の価値観のもと「走る喜び」を進化させ続け、お客さまの日常に移動体験の感動を創造し、「生きる喜び」をお届けしていくことを目指してまいります。

【ご参考】

- 受賞動画:「RX-7と過ごした 25 年間、最後の 3 日間 ～クルマが残してくれたもの～」

(公開日:2025 年 3 月 31 日)

https://www.youtube.com/watch?v=CWhNI_x9W6c&t=146s

- マツダ株式会社 企業サイト | MAZDA MIRAI BASE |

- RX-7と過ごした 25 年間、最後の 3 日間、“友達”が残してくれたもの

<https://www.mazda.com/ja/mazda-mirai-base/articles/20250331-rx7-documentary/>

- 愛車と共に走れる未来を –マツダがつなぐ、人とクルマの物語–

<https://www.mazda.com/ja/mazda-mirai-base/articles/202602-rx7-classicmazda/>

以上